

# 千里の丘にて「Mastery for Service」を臨む ～ SIS と OIS

関西学院千里国際キャンパス宗教主事 土井 直彦

## 沿革とその理念、そして「Mastery for Service」

千里国際キャンパスは箕面市の東端、茨木市との境に近い千里丘陵にあります。1991年に学校法人千里国際学園として創設され、4月に大阪国際文化中学校・高等学校（Osaka Intercultural Academy：OIA）が設立され、8月に大阪インターナショナルスクール（Osaka International School：OIS）を併設するかたちで教育を開始しました。現在も幼稚園から高校まで、全て合わせても800人前後の小さい学校です。一つのキャンパス内に学校教育法に基づく“一条校”とIB（国際バカロレア）カリキュラムに基づく“インターナショナルスクール”が、施設や教員、一部の授業を共有する形で存立している学校は他に例がなく、“Two schools together”を合い言葉に、ユニークな教育活動を展開しています。大阪国際文化中学校・高等学校（OIA）は1999年に千里国際学園中等部・高等部（Senri International School：SIS）に改称しますが、2010年の合併を経て関西学院千里国際中等部・高等部（Senri International School of Kwansei Gakuin：SIS）となり、大阪インターナショナルスクールも、関西学院大阪インターナショナルスクール（Osaka International School of Kwansei Gakuin：OIS）と校名を変更しました。

千里国際学園のそもそもの成り立ちは、1980年代の急速な国際化に伴い、海外から帰国した子どもや、日本在住の外国人家庭の教育ニーズが増大し、これらに対応する多様な学校教育が求められたことに端を発しています。このニーズに対して文部省（当時）は「国際性」や「多様性」を重視し、国際的なカリキュラムを導入した「新国際学校」構想を打ち出しました。その構想を受け、近畿財界や主として阪急電鉄を中心に“あたらしい学校”を創り出すことを目的に設立されたのが、二つの学校を併せ持つ千里国際学園でした。

国際基督教大学（ICU）高等学校の教頭として帰国生の受け入れに奔走していた藤澤<sup>ふじさわ</sup>院氏は、設立準備室の中心メンバーとして請われ、2年の準備期間を経て開学し、SISの初代校長となります。7年間校長職を務められましたが、校内機関誌で設立当初を回顧された場面で、学校のハード面の構築以上に人（教員／職員）を選び、ルールを作り、理念を固めることの難しさと大切さを振り返っておられます。設立当初の採用予定者と5日間にわたって宝塚のホテルで討議を重ね、目指す人間像「Informed, caring,

creative individuals contributing to a global community」とその手段としての「5つのリスペクト（Respect for self, others, learning, environment, leadership）」を校是としました。目指す人間像は現在「知識と思いやりをもち、創造力を持って世界に貢献する個人」と訳されていますが、初めに英語での文言があり、この言葉を学校の一致した理念としました。

3年前に赴任した筆者は現在SIS中等部で「5Respects」を、高等部で「Mastery for Service」の授業を担当していますが、千里国際学園が関西学院と合併する以前から作られたスクールミッションは、関西学院が掲げる「Mastery for Service」と多くの点で重なり、繋げることのできる考えであることを多々感じます。

千里国際学園高等部が2005年に関西学院と連携協力協定を締結し、推薦制度が始まると、関西学院の国際学部設立構想を背景として2008年から合併協議を開始します。国際化を推し進めたい関西学院と「世界市民」の育成という千里国際学園の考え方が重なり、2010年に千里国際学園は関西学院と合併します。過去の資料を紐解くと、そこで示された合併には単なる利害による一致以上の教育的な方向性・目的の共有があったように感じられます。



千里国際キャンパスエントランス

## キリスト教主義教育の素地

前述の千里国際学園の成立は、国際化の流れの中で、行政や財界、鉄道会社の主導のもとと社会のニーズに応じ作り上げられたことが前提となり、そこに宗教的背景や特定の思想的基盤があったわけではありません。しかしその目指す人間像の根本には人間に対する友愛の精神と、社会（世界）に対する積極的な貢献を求める意識が深く示されています。



SIS 初代校長藤澤氏は、ICU 出身であり、熱心なクリスチャン（日本基督教団野田教会員）でした。藤澤氏は自身がキリスト教主義教育の重要性と価値観を理解されていましたが、同時に国際性や文化の多様性を考えた時に、帰国生を中心とした様々な背景を持った生徒を迎えるにあたっては、多様な宗教観や信仰に対して寛容であらねばならないこと、また実際の生活においても食事や習慣など宗教を背景とした文化的側面への細かい配慮が必要なことを、設立時の必要な検討事項として振り返っています。

また、OIS 初代校長のジェームス・ウィズィ（James Wiese）氏は、ルター派の牧師として聖望学園で校長職とチャプレンを兼任されていた人物でした。牧師として活動する傍らアメリカンスクールインジャパン（ASIJ）の教育開発ディレクターを兼任していた際に、その経験と実績から推薦され“あたらしい学校”の創設に参画されました。また地域伝道のために活躍し、教会設立に協力したことが記録されています。設立された教会は、近隣在住の国籍や文化の異なる人々を対象とした超教派の教会であり、校内のキリスト教信仰を持つ教職員の受け皿的な位置づけでもありました。

ICU 高校在職時から国際学校の研究の先駆者であった藤澤氏は校内の『研究紀要』（第3号 1995年）の中で日本における国際学校を典型的に分類し、その特徴や学校の在り方を丁寧に論考していますが、そこでは、千里国際学園を「自国民の国際人養成と外国人受け入れのための国際学校」の類型に位置づけています。同時に日本の国際学校の先鞭がキリスト教解禁時に設立されたカトリック校（横浜のサン・モール国際学校）であり、日本の国際学校の在り方がキリスト教を土台とした学校から始まったことに多くの紙面を割いています。

このような背景からも、千里国際学園は創立時にキリスト教主義教育を行うことを目的として設立されたわけではありませんがその人間観や土台となる理念の根底にキリスト教主義教育と重なる点を多く持っていたことは想像に難くありません。その上で、自他を尊重し、学ぶことを大切に、周囲と世界を見渡して、主体的に社会に貢献する世界市民を育成することをスクールミッションとして千里国際学園が設立されたことは、後に関西学院と関わる上で重要な点となったことが理解できます。

## 2つのミッションを併せ持つ学校として

藤澤氏、ウィズィ氏共に、2010年の関西学院との合併時には千里国際学園を去られておられますが、設立時のミッションは現在も息づき、校内でも学びと生活、それぞれの場面で口にされ、また実際の教育の場面で具体的にどのように展開すべきか、日々研究が継続されています。

同時に、千里国際キャンパスは関西学院と合併後15年を経て、また新しい歴史を刻もうとしています。関西学院のスクールモットーである「Mastery for Service」は、それまでの千里国際学園時代の考え方に置き換わるものではなく、真の「世界市民」を世界に送り出すと言う発想において結びつく概念です。「世の人に仕える（奉仕するため）」に自身をいかに「研いて（研鑽）」いくのか。人々の弱さや辛さに向き合い、身を捧げたキリストをロールモデルとして学びを深めようとする「Mastery for Service」は、本キャンパスの教育を更に広げるきっかけを与えます。

合併後、長らくキリスト教主義教育の専従者が不在であったため、千里国際キャンパスでのキリスト教主義教育はまだまだ始まったばかりです。しかし、同時に関西学院がこれまで培ってきた「Mastery for Service」の理念は千里国際キャンパス従前の理念と重なるだけでなく、「世界市民を育む」ことの基盤となって千里国際キャンパスに浸透し、「他者に仕える」人材を生み出していくと信じています。

関西学院に連なるひとときわユニークな千里国際キャンパスに、是非足をお運び下さい。心より歓迎致します。

（どい なおひこ）



千里国際キャンパス中庭